

「コスモスへの思い」

まだ元気でバリバリ仕事をしていた頃の事、いつの間にか熱心にコスモスの花を描く様になっていた。ある日、どうしてコスモスばかり描くのかを聞いてみたくなった。すると笑顔で答えた。コスモスは踏まれても倒れても、そのままそこから花を咲かせている。すごいと思うし好きだ、と言った。それを聞いてハッとさせられた事を覚えている。花の美しさだけではなく、じっとけなげな姿に感動しながら見ていたのだと。いちど心引かれてからは、絵のいろいろな場面に登場させていた。その後、脳出血を起こし入院してからも、麻痺のない左手でこの花をやっと描いていた。きっとコスモスに慰められていたのだと思う。

池田 恭子(筆)

今回ハビリ10年の節目の時に、高鍋町美術館様のご好意で企画展をする事ができ、大変嬉しく思っております。友人達の賛助展と併せて楽しんでいただければ幸いです。

池田 弑 榮

池田 弑 榮 略 歴

昭和17年 国富町生
昭和40年 宮崎大学教育学部美術科卒業

受 賞 歴

二紀展 昭和51年 初入選
昭和60年 同人推挙
平成10年 春季二紀奨励賞

平成11年 西部二紀B賞
平成12年 会員推挙

宮日展 奨励賞(昭和41・43年)
特 選(昭和44・60・61年)
現 在 無鑑査

県美展 準特選(昭和56・61・62年・平成10年)
特 選(平成7・8年)

上野の森美術館

昭和63年 絵画大賞展入選
平成 3年 日本の自然を描く展佳作賞

～コスモスとともに～

池田弑榮創作展

2011年9月10日(土)～10月9日(日)

AM10:00～PM5:00 (入場はPM4:30まで)



主催 高鍋町美術館 高鍋町教育委員会 高鍋町
会場 高鍋町美術館

ひたむきなやさしさ ～ 池田弼榮個展によせて ～

先日、近くの公園を散歩していたら、ヒメジオンがいっぱい咲いていた。この花の名前を教えてくれたのは池田君だった。その池田弼榮が個展を開くという。彼とは永い付き合いだ。若い頃は夏になると百号のキャンバスを丸めて、京都の画家のアトリエへ夜汽車に揺られ幾年も通ったり、絵の仲間をつくろうと宮崎二紀会を立ち上げるのに懸命だったり、生活の多くの時間を共有し、友情の域を越えた仲である。この永年の間に彼から与えられたものは計り知れない。おそらく彼がいなかったら、私はここまで絵を書き続けられなかったかもしれない。

彼は若いころから独自の世界観を表現し、すでに世に認められていた。

山の深きに驚き、川のせせらぎを楽しみ、海の広大さに挑戦し、それらをよく見、よく聞き、その頃には無限の生命や不思議を見い出していたに違いない。だから、描かれる鳥も花も小さな生きもの全てが彼自身と一体化して、画面中で遊んでいた。

彼に誘われた私も、山に海に川に、自然の啓示を少なからず教えられたようだ。そんな彼が数年前、体調を崩し大作が描けなくなった。しかし、奥様の励ましと看護、彼の不屈の闘志で自然を見続け、左手で草花などを描き続けていた。

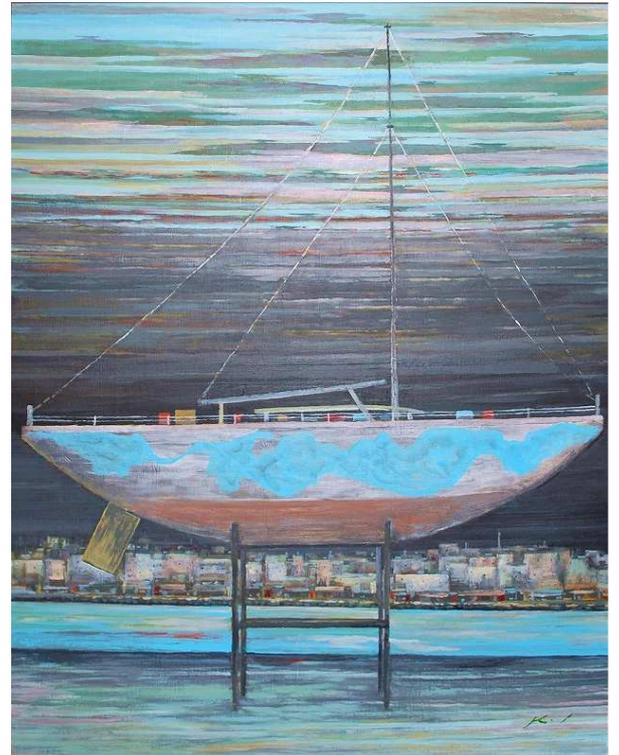
それから数年後、宮日美術展の会場で「ブランコ」と題する作品に出会った。静かな風景のなかに人のいないブランコが揺れている作品だった。不思議な空気の流れるその絵の前でしばらく見入っていた。それが池田君の絵であったことに驚き、嬉しかった。そして昨年、宮日美術展の無鑑査の作品の中に圧倒的に美しい作品「マリーナの夜明け」に出会った。早朝の爽やかな透明な空気の中に船が静かに佇んでいる。何を語るでもなく、何を求めているのでもなく、自然の無色透明な池田弼榮の”ひたむきなやさしさ”があった。

今回の個展で多くの人が氏の自然観を見てほしいと願う。

二紀会委員 清水聖策



雨後の霧島 油彩 30号



アリーナの夜明け
油彩 50号